

日本マインドフルネス学会員の皆様

2021年度から理事を拝命いたしました池埜聡です。不慣れでご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、少しでも本学会の発展に寄与できるよう精進してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

私とマインドフルネスの出会いは、東日本大震災がきっかけでした。震災2ヶ月後にボストン・トラウマセンターのベッセル・ヴァン・デア・コーク先生を招聘した際、トラウマケアにおけるマインドフルネスの重要性を間近に知る機会を得ました。その後、2012年度にUCLA マインドフルネス・アウェアネス・リサーチ・センターで1年間、さまざまなプラクティスを経験し、2018年度には同じくUCLAにて1年間のマインドフルネス指導者養成プログラムを修了しました。また越川房子先生、家接哲次先生らのご尽力で開催されたMBCT指導者養成課程のModule 4までを受講させていただく機会を得ました。

現在、女子少年院のマインドフルネス・プログラムの外部講師、社会福祉士会との連携による福祉職を対象にしたマインドフルネス研修の展開、関西を中心とした市民向けのマインドフルネス講座、そして国際マインドフルネス指導者養成協会（IMTA）認定資格を取得され、医療ソーシャルワーカーとしてマインドフルネスを実践応用されている国立病院機構別府医療センターの井上祥明先生および小倉医療センターの精神保健ソーシャルワーカー、井上紘治先生らとともにマインドフルネスに根ざすソーシャルワーク実践の研究及び発信などを継続しています。

私の専門はソーシャルワークです。マインドフルネスを社会的排除に見舞われたマイノリティの人々への支援に活かす道筋を模索し続けています。

今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

Impermanence makes everything possible. —Thick Naht Hanh

2020年12月14日

池埜 聡



略歴

神戸生まれ。

カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）大学院社会福祉学科博士課程修了（Ph.D.）。現在、関西学院大学人間福祉学部教授。UCLA Asian American Studies Center 客員研究員（2012-2013）。UCLA Mindful Awareness Research Center 客員研究員（2018-2019）。

専門は臨床ソーシャルワーク、トラウマ学、マインドフルネス。

臨床経験として、大阪の民間精神科クリニックにおいてシステム家族療法、アメリカ・コロラド州デンバーにあるAsian Pacific Development Centerにて臨床ソーシャルワーカーとして東南アジア難民支援に従事。

マインドフルネス指導者資格として、UCLA-Certified Mindfulness Facilitator, 国際マインドフルネス指導者協会認定資格（IMTA-Certified Mindfulness Teacher）取得。2014年から法務省矯正局「女子少年院在院者の処遇体制充実検討会」外部アドバイザー、女子少年院マインドフルネス・プログラム講師及びコーディネーター。

著書として、『福祉職・介護職のためのマインドフルネス』2017年（単著）中央法規出版、『ケアマネジメントにおける援助関係の軌跡：クライアントとの間にあるもの』2017年（共著）関西学院大学出版会、『たましいの共鳴：コロンバイン高校と附属池田小学校の遺族が紡ぐいのちの絆』2013年（共著）、『犯罪被害者支援とは何か：附属池田小事件の遺族と支援者による共同発信』2004年（共著）ミネルヴァ書房など。